

OVER the RAINBOW

巻頭言

国立大学法人 大阪教育大学 理事・副学長 廣木 義久

『多様性・異文化理解が強さをはぐくむ』 vol. **32**

TOPICS

- 韓国・大邱教育大学との国際学術セミナー
- 第13回グローバルセンター国際シンポジウム
- 国内外での国際交流活動
 - 日タイ大学生国際交流プログラム
 - 和菓子作り体験
 - 小学生との交流
- 派遣留学生の声
- 2022年度後期修了留学生メッセージ
- 本学卒業・修了生の今!
- グローバルセンターニュース&More!
 - EAIE報告
 - 外国語学習支援ルーム(GLC)の活動報告
 - 留学生支援のお願い



国立大学法人 大阪教育大学 理事・副学長（教育・研究・危機管理担当） 廣木 義久

『多様性・異文化理解が強さをはぐくむ』

2022年はサッカーワールドカップ(カタール大会)開催の年にあたり、各国代表選手が国を背負って熱いゲームを繰り広げた。その3年前の2019年にはラグビーワールドカップが日本で開催され、多くのラグビーファンを魅了した。これらのスポーツ大会でのゲームを見て思ったことは『結局のところ、国際交流・異文化理解を進めたチームが強い。』ということである。

今回のサッカーワールドカップでは、日本チームは初のベスト8入りを目指して奮闘し、強豪国に競り勝ち、予選をトップ通過した。その後の決勝トーナメントでは惜しくもPK戦で敗れたが、実力的には十分にベスト8に相当するレベルにあるように思った。若きイレブンの多くは海外のクラブチームで活躍しており、生き生きと自分のプレーをしているように見えた。海外の競争の激しいクラブでの普段の“国際交流”(自分より力のある選手との競争)により、実力を付けていることが伺えた。回を重ねるごとに海外で活躍する選手の数が増えていることが日本代表チームを強くしているのだと思う。

2019年のラグビーワールドカップでも日本代表が大活躍し、予選リーグを全勝で初のベスト8、準々決勝に進み、日本中を沸かせた。代表選手は当該国の国籍がなくても代表になることが可能で、外国人選手の制限数もない。日本代表も多くの外国人選手が活躍した。これはラグビーの歴史にも関係しており、現在においてはラグビー界の文化となっているようである。多国籍の選手がチームを強くするという文化が根付いている。日本代表の躍進がまさに“国際交流・異文化理解”(国籍・文化の異なる多様な個人同士がOne Teamとなって戦うこと)の賜物であった。

本学は2022年3月に文部科学大臣より教員養成フラッグシップ大学の指定を受けた。本学のテーマは“ダイバーシティ大阪”である。様々な課題を抱える大阪の子どもたちを支援するための教育とはどのようなものか、そのためにどのような教員の養成が必要か、という問いに教職員一丸となって取り組んでいるところである。ダイバーシティ大阪の考え方の中心にあるのは、多様な子どもたちが協働して学び合うことによって(異文化理解)、ひとりひとりが個々の能力を存分に発揮して生き生きと活躍する、そんな社会を作りたいとの思いである。これは上記スポーツの世界と同じである。いろいろな能力を持った者の集団は新しいものを生み出す強い社会そのものである。そんな未来の社会を共創していく子どもたちを育てていきたい、そんな子どもたちの力になれる教員を育てたい、これが私たちの願いである。



韓国・大邱教育大学と国際学術セミナーを開催

— コロナ禍で中断されて以来、3年ぶりの本格的な対面式企画の再開 —

本学と大邱教育大学は2022年12月21日、柏原キャンパスにおいて国際学術セミナーを開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行以来、このような企画を対面で開催するのは実に3年ぶりです。

多文化教育系・グローバルセンター国際連携部門長の中野知洋准教授の司会の下、本学岡本幾子学長の挨拶に始まり、大邱教育大学総長の挨拶、両大学から教員2名ずつが大学改革の取り組みと教育について発表を行いました。大邱教育大学側は大学教員および職員の一行が70名近く、本学側は教職員、通訳学生も含め30名程度が参加し、会場は熱気に溢れ、大いに盛り上がりました。

質疑応答では大邱教育大学の倫理教育学科の教授から「本日のシンポジウムのテーマは、『大学教育の革新』となっているが、午前中に授業観察した附属小学校の子供たちがこの寒い中半ズボンで過ごしているのは何故なのか」という質問をユーモアたっぷりに話されたことが大変印象的でした。会場を和やかにし、集まった人々の一体感を高めてくれました。

ワークショップタイムでは、日韓の教員がいくつかのグループに分かれて、互いの大学の近況や学問の専門領域について活発に語り合いました。

コロナ禍で、国際交流活動のほとんどがオンラインによるものに限定されていましたが、世界的にも新型コロナウイルス感染症とともに生きる「ウィズコロナ」へと進み、交流活動再開への機運が高まっていることを実感するセミナーとなりました。

多文化教育系 初等教育部門 教授 裴 光雄（ペ クワンウン）



グループワークの様子



セミナー参加者集合写真

第13回 グローバルセンター国際シンポジウム

— 「大学の国際化・多文化化」をテーマに開催 —



2022年11月16日、2名のゲストと本学教員という海外経験豊富な3名の講師によって、ポストコロナ時代を見据えた国立大学の国際化のあり方を考えるシンポジウムをオンラインで開催し、学生及び教職員合わせて約40名が参加しました。

高知大学人文社会科学部門の高橋俊教授は、高知大学におけるオンライン留学の取組とその困難さについて講演しました。

本学表現活動教育系の出野文莉准教授は、中国・天津大学への学生引率の経験から、書家や水墨画家による実践指導などの事例を紹介し、専門分野における国際交流の重要性を説明しました。

また本学の協定校でもあるリヨン第三大学日本語学科の細井綾女准教授は、フランスの大学で日本学を教える際に、常に「どうしてフランスで日本人が教えないといけないのか」という問いを念頭に置くことの大切さを伝えました。海外での就職にはビザという課題を乗り越える必要があり、そのためには語学力を磨くだけではなく、日本学に関する知識を培うことも重要と強調しました。

参加者からは「オンラインと対面のギャップについて、身につまされるところが多く、興味深かった」「日本人がフランスで仕事をすることについて、非常に貴重なお話を伺うことができた」などの感想が寄せられました。

国内外での国際交流活動

日タイ大学生国際交流プログラムに参加して

本プログラムは、東京学芸大学の主催の下、日本（東京学芸大学・大阪教育大学）とタイ（コンケン大学）の双方の学生交流を通じて、グローバル化が進む教育現場において必要とされる実践的な指導力を養成することを目的として実施されています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行以来の再開となり、12月11日～18日の8日間、日本の学生がタイへ渡航する短期派遣プログラムとして実施されました。学生たちは日本での事前学習を終え、タイで多様な教育現場の実際に触れ、教育の現状や課題について考えてきました。以下は、参加した学生の感想です。

みなさんは、「タイ」「タイの教育」と聞いてどんなことを思い浮かべますか？王室の存在の大きさ、敬虔な仏教徒の国の教育は厳しいのか？温厚な人々、、、？私はそんなイメージのあった国でどのような教育が行われているのか、自分の目で見てみたい！と思い、今回のプログラムへの参加を決めました。このプログラムでは東京学芸大学のみなさんと協力をしながらバンコクとコーンケンという場所それぞれで、現地の学校訪問や、自ら企画した研修内容の実践に取り組みました。現地の公立学校、インターナショナルスクール、大学の附属校、教育活動を行う先生方や、児童・生徒のみなさんとの交流では、タイからみた日本、そして私たち自身が携わる「日本の教育」、自分の教育への考え方がよく分かる場面がありました。タイ・日本ではどのように教えているのか、批判的な思考を教育の中で養うために何を行っているのか、教員のイメージや働く環境について質問を交わす中で、授業の実践で無意識に気をつけていることがお互いにわかってきました。自国や他国の教育のシステムを座学で学ぶことは重要としても、それ以上にそれがどのように生きているのかを知るには、会話を交わさなければならないなと思いました。生徒と先生との関係性ひとつをとってもタイと日本の状況を共有しながら、人々の心、考え方に大きく関わる「文化」がいかに教育を支えているのかを痛感しました。

また、タイで日本語教育を学ぶ学生のみなさんとの交流では、日本語を大切に話される姿に感銘を受けました。言語の活用ができる、できない以前のところで、言葉や文化をリスペクトすることを忘れては、学びが深くならないと感じました。実際に、プログラムの中では、自分たちで街に出て値段の交渉や公共交通機関の使用を積極的に行いました。日本語や日本人がどのように思われているのか、はっきりと分かる状況にも遭遇しました。相手の言葉や文化を尊重すること、そんな当たり前なのが、実際には実践が難しいということに気づかされるのも、「違う」ことが当然の環境の中にいなければ分からないことだとも思いました。

タイでは、自分の思いを大切にしながら、教育に携わり、日本について関心を持ち、少しでもお互いにとって良い関係を紡いでいこうとする人々との出会いがありました。そして、それぞれの思いを持ち、日本とタイの言葉や文化を大切にしている姿がありました。学校訪問や、自主企画を通して学ぶこと、そしてそれ以上に人々との出会いの中で生まれる「私もあれをやってみようかな」というたくさんの気持ちが湧いてワクワクしてきます。学んできたことを整理し、少しでも自分自身の教育活動に活かせるよう頑張ってみようと思います。

高橋 智佳（タカハシ トモカ）／教職大学院高度教職開発専攻教育実践力コース1回生



左から2番目 高橋さん

和菓子作り体験

本学には短期留学生が日本、特に大阪の文化について理解を深めることを目的とした体験型の授業があります。今年は初めて和菓子作り体験を企画し、正規学生と一緒に団子作り挑戦しました。以下は参加した2人の留学生の感想です。

2022年11月16日和菓子作り体験がありました。私たちは団子を作りました。とても面白かったです。先生と日本人学生のおかげで、団子生地を作ることができました。生地から小さな丸い団子を作るのはとても楽しかったです。この団子を作りながら、私の母国であるキルギスと幼少期を思い出しました。キルギスには「クルート」というスナックがあります。これも丸い形をしています。味はしょっぱいです。

みんなと話しながら団子を作るのはとても楽しかったです。授業時間はあっという間に過ぎました。お団子を作った後は、盛り付けて食べました。特にあんこ入り団子がとても美味しかったです。

SOVETOVA ZHAZGUL（ソヴェトワ ジャズグリ）／特別聴講学生（キルギス出身）

留学生の皆さんと和菓子作りを体験し、貴重な経験となりました。団子作り自体は幼い頃に何度か経験があった程度で不安もありましたが、会話を交えながらワイワイと楽しむことができました。ヨーロッパ出身の留学生と各国のお菓子事情などを話し、皆さんの日本文化への強い興味に圧倒され、私もヨーロッパの国々の食文化への関心が深まりました。普段なかなか関わるできない留学生と団子作りを通して貴重な交流ができました。

岡部 将仁（オカベ マサヒト）／教育協働学科健康安全科学専攻4回生



小学生との交流

大阪教育大学では留学生と小中高校に通う児童生徒との交流活動を積極的に行っています。今回は大阪教育大学附属平野小学校からの依頼で10名の留学生が小学生と交流を行いました。

2022年11月5日に附属平野小学校へ行き、3年生の子どもたちと英語の授業で交流しました。私たちが観光客役、子どもたちが店員役で買い物のロールプレイをしたり、歌を歌ったり踊ったりしました。子どもたちは積極的に手を挙げて、上手な英語で先生の質問に答えたり、意見を言ったりしました。その風景を見て、授業で手を挙げることを躊躇してしまう私も、子どもたちのように積極的に意見できるようになりたいと思いました。今回の交流に参加できてとてもよかったです。

ABDAN SYAKURO HABIBALLOH（アブダン シャクロ ハビバロー）／日本語・日本文化研修留学生（インドネシア出身）



派遣留学生の声

交換留学体験記



吉川 喜久 (キッカワ ヨシヒサ)

教職大学院高度教職開発専攻教育実践力コース2回生
スウェーデン・リンネ大学への交換留学(期間:2022年1月~2023年1月)

私は「小・中学校が連携したプログラミング教育のカリキュラムマネジメント」をテーマにスウェーデンに留学しました。留学では大学での学習を中心に、実践経験も積めるように自らボランティアなどにも参加していました。大学の授業ではスウェーデンの教育システムや、教育実習、研究評価方法なども学びました。様々な国の留学生と共に各国の教育システ

ムなどを比べながら学ぶことはとても面白かったです。

さらにヨーロッパでは、コロナ禍であることを特別感じることもなく生活することができていました。そのため、コロナ禍が私に与えた影響は、留学中の「積極性」です。実習等が多くある教職大学院からの留学だったため、一年半の延期を乗り越えることは容易ではなく、多くの人の協力のおかげで実現することができました。そのため、日本で渡航のチャンスを待っていた間に「必ず留学する」と思い続けてきた気持ちがエネルギーとなり、様々なことに積極的に挑戦できたと思います。

留学で得られた新しい気づきは、学校教育を学ぶにはその国の歴史や社会制度にも目を向ける必要があることです。当たり前のことかもしれませんが、日本の中で日本の学校教育を学んでいるとその重要性に意外と気づきにくいと思います。現在のスウェーデンの学校教育を考えるためには、どのような社会制度やカリキュラムの変遷によって成り立っているのかまで考える必要があることに気づけました。自国を離れ、海外で教育を学んだことで、社会とのつながりを重要視して学校教育を学んできたことや、カリキュラム変遷を学ぶ意味について再度深く考えることができたと思います。

私がこの留学中に大切にしていたことは、自身の好奇心に瞬時に反応して、新しい環境に飛び込む行動力です。そして自分が経験するだけでなく、自らも他者に発信することを心がけていました。

海外留学は日本と全く異なる環境で生活するだけでも貴重な経験を得られます。しかし、常に受け身ではすくもつたいないとも思います。私は現地で様々なコミュニティに参加し、日本文化の発信活動に

も取り組んでいました。さらにスウェーデンから日本においても、技術教育コースの学生や北欧の教育に興味のある方々に対して、オンラインセッションを企画し、学んでいることの発信を行なっていました。結果的にこの活動が新たな縁や内省できる機会、思いがけない経験に繋がりました。

次に印象に残っている留学中のエピソードをひとつ紹介したいと思います。私は大学での学業の傍ら、競泳マスターズチームに所属して練習をしていました。日々の練習で体を動かすことでリフレッシュができ、留学生活が水泳と共にあったことで充実していたと思います。さらにスウェーデンに来て初めての学校見学は、同じチームのメンバーで先生をされている方の授業見学でした。素直に水泳がしたくて、現地の方々とも関わりたいと思って始めたことが、留学中の学校現場での実践活動に繋がりました。私の経験のように、面白そうだからやってみよう!と起こした行動が、思わぬ場面で生かされることも留学の魅力だと思います。

最後に留学をしてみたいと思った気持ちに対して、たとえそれがまだ小さな好奇心だったとしても思い切って挑戦してみてください。この記事を読んでいる方で、留学にあたっての目的意識を定めることに難しさを感じられている方もいるかもしれませんが。実際に私自身もスウェーデンに行って何がしたいのかを考えることにたくさんの時間をかけました。興味ややりたいこと、将来設計などを言語化したり、焦点化して考えることは決して簡単ではありません。しかしその時間を取ることで留学がさらに有意義なものになります。

目標や軸をしっかりと持つことのよさは、「ありたい姿」を再確認したときに、その理想とのズレに繊細に気づけることだと思います。そしてその軸は強く太いものであるだけでなく、変化に対応できる柔軟性も兼ね備えておくことが大切です。この心構えができていたからこそ、留学で思う存分挑戦して、前に進むことができました。みなさんもワクワクする気持ちを大切に、是非留学に挑戦してみてください!



海外VLOG(平日の一日)
トビタテ!留学チャンネル
【文部科学省】



海外VLOG(休日の一日)
トビタテ!留学チャンネル
【文部科学省】



海外VLOG(課外活動)
トビタテ!留学チャンネル
【文部科学省】



現地で教育実習を行っている様子



競泳マスターズチーム

2022年度 後期修了 留学生メッセージ

Thank you O.K.U

特別聴講学生

氏名 ライド・ベン
出身 ベトナム

一年間の日本の生活の中で、大教大でたくさんの人々に出会ったというのを覚えています。とても楽しかったです。

さらに、GLC先生たちも留学生たちはたくさん応援してくれて、本当にありがとうございました。

OKU!!! vvv
お返事に!!

氏名 テン・サイ・カム・ベン
出身 ベトナム

OKUで一年間過ごしてきた時の思い出で、より多くのことを体験出来、より多くの学びが成熟してもらった。

日本と来て、いざお友達と別れて勉強できる夢があった。

I ♥ OKU
ありがとうございました

氏名 チヤン・ペイ
出身 台湾

日本に留学してからは、英語と知識を学びます。授業の内容も日本語の知識を深め、自分の文化を振り返ることができちました。

氏名 バク・ジュン
出身 韓国

OKUでたくさんのおいしさを作ることができて楽しかったです。

一学期の間、助けてくれた方々に感謝します。

氏名 イ・ヨナ
出身 韓国

大阪教育大学の先生と学生みんなが親切で、学校生活が楽しかったです。

いつかまた会えるといいですね。皆さんありがとうございました。

氏名 Leila Vizio
出身 スイス

日本のキャンパスライフを楽しく良かったです!

色々な国の人も出会えてうれしかったです!

氏名 マイラ・ステレ
出身 スイス

ありがとう!

チューダーと日本で出会った友達に感謝しています♡

お元気でね!

氏名 リョウ・メー・チュン
出身 台湾

大阪教育大学に来てよかった。世界のの人たちに会えるとても幸せと思います。

氏名 ノルウェー
出身 フランス

大阪教育大学で勉強するのはとても面白かったです。日本語が上手になりました!

日本の生活は楽しかったです。

氏名 ベルナド・タリス
出身 フランス

この6ヶ月はあっという間で、日本語を勉強して、日本人の友達に会ってくれたOKUに感謝します!

教員研修留学生

氏名 トラ・クワ・クワ
出身 フィリピン

OKUで一番良かったのは、みんなフレンドリーで、とても楽しい。ここにいてよかった。OKU... ありがとうございます...

氏名 ANAM (アナム)
出身 PAKISTAN

A big thanks to all the teachers and staff members. It was indeed a fulfilling year with life long memories.

氏名 YX ツラウ・ミン
出身 ミャンマー

OKUで過ごした素晴らしい年間を私は永遠に忘れません!

ありがとうございます

氏名 Benjamin Israel
出身 GHANA

I can never tell my story without including the great role Oku have played in my life. I want to appreciate the principal, teachers and GLC for their steadfastness to see me excel. I ♥ JAPAN

氏名 PREETI
出身 INDIA

SERENE, SUBLIME & EXCELLENTLY RICH LEARNING & LIVING EXPERIENCE AT OSAKA KYOKU UNIVERSITY, JAPAN.

氏名 Jimesa
出身 ケニア

My time at OKU has been an unforgettable experience. I thank my teachers and everyone at GLC. I will miss the mountains, laughter in the kitchen and even the stars.

To all my classmates, I wish you the best. It was wonderful to share this journey with you.

かんぱち ぐさぐさ

氏名 Silvija
出身 CROATIA

OKU is connecting people! I made friends and memories for life. Had an amazing year! Thank you!

氏名 Shanna M.H. Hwang
出身 Kuangtung

A great Thank you to my teachers and friends for being part of my journey.

-Shanna

氏名 WAMBUI EMAY
出身 KENYA

Oku has been the highlight of my stay in Japan. I learned about Japanese culture and sports. I also learned about the school system and day education. I made wonderful friends and memories here. Thank you, OKU.

■特別聴講学生
STENGEL SIMON MATTHIAS (ドイツ)
GEISSERIK (ドイツ)

■教員研修留学生
KIM EUI KYUNG (韓国)
BOME JOHANNA (エストニア)
OKELO MESHACK OPIYO (ケニア)

本学卒業・修了生の今! ～Message From OKU International Students～



2016年9月修了
日本語・日本文化研修留学生
指導教員：中山 あおい

BJELAN SVEN (ビエラン スヴェン) さん (クロアチア出身)

2015年から大阪教育大学で、日本語・日本文化研修留学生として日本語と書道の勉強に励み、充実した日々を過ごしました。クロアチアに帰国してから約半年後、在クロアチア日本大使館から連絡があり、クロアチアのホストタウンである新潟県の十日町市でのJET国際交流員という仕事のオファーをいただきました。国際交流員(CIR:Coordinator for International Relations)は、主に地方公共団体の国際交流担当部局等に配属され、国際交流活動に従事します。大使館の面接や日本語の試験に合格し、2017年の8月から国際交流員としての仕事がスタートしました。5年間、クロアチア共和国と深い国際交流を構築した十日町市で、スポーツ・文化・経済という三つの分野の諸々のプロジェクトの開催に関わりました。その中でも「クロアチアホストタウン十日町市」として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受入は大きなプロジェクトでした。東京2020の直前にクロアチアの柔道、空手、テコンドーの代表チームと代表団の関係者に十日町市に来ていただきました。国際交流員の契約が終わる前に、十日町市のクロアチアとの国際交流のキーパーソンと一緒に「クロアチアホームタウンクラブ」を立ち上げました。これからクラブのアドバイザーとして母国と十日町市、または母国と日本の外交関係に関わります。現在、国際商社で海外事業をしながら、大阪に住んでいます。そして、オリンピック事前キャンプでクロアチアの柔道家の練習から影響を受け、柔道が私の新たな趣味になりました。「クロアチアホストタウン十日町市」として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受入をゴールではなく、ひとつの通過点と位置付け、これまでのクロアチア共和国との交流の歴史が作り上げた繋がりを大切にし、未来永劫、友好関係を深めていきたいと思います。



2019年3月修了
大学院教育学研究科国際文化専攻
言語文化コース 日本・アジア言語文化研究
指導教員：中野 知洋

陸 成毓 (リク セイイク) さん (中国出身)

こんにちは、2019年3月に卒業した陸成毓です。現在は専門学校で事務の仕事をしています。卒業して以来間もなく4年になり、あっという間に社会人4年目になりました。大教大で過ごした日々は、つい昨日のこのように覚えています。驚くほど長いエスカレーター、いつもキャンパス入口近くにいる猫ちゃん、四季折々の山景などのことは、今でも職場の同じ大教大出身の先輩や後輩達と盛り上げられる話題です。

母校のことがいい思い出として存在するのは大教大のすごいことです。現在学校の職員として学生時代を振り返ると、先生達から丁寧な指導を受けたことに限らず、グローバルセンター、キャリア支援センター、学生支援課、図書館など職員達の努力も欠かせない。日常の仕事では、入学式、卒業式、発表会、オープンキャンパスなどさまざまなイベントがあり、悩みやうまくいかないことはもちろん、楽しいこともいっぱいでした。いつも大教大の皆さんが優しく対応してくれたことを思い出して、また仕事を頑張る勇気が湧きます。

また、仕事で出会った留学生たちの中には、日本に来たばかりで不安な学生、難しい授業に悩む学生、就活が順調にいかない学生がいて、彼らを見てみると昔の自分と重なることを感じられます。何もわからない所から、今に至るまで多くの人たちのおかげでした。近鉄の駅に行く道のバス停の近く、赤い看板に「明日もまたいい出会いを」と書いてあり、毎回この看板を見ると癒やされる感じがありました。明日はきっといい明日になるだろう。



2020年3月修了
大学院教育学研究科国際文化専攻
言語文化コース 日本・アジア言語文化研究
指導教員：石橋 紀俊

劉 書銘 (リウ ショメイ) さん (中国出身)

私の場合は大教大で大学、大学院の6年間の学生時代を過ごしました。2015年に教養学科日本・アジア言語文化コースに入り、憧れの文学世界へ飛び込みました。日々自然豊かなキャンパスで授業を受けたり、図書館で読書に夢中になったりしておりました。

学部生だった時留学生はまだ多くいなかったため、よく学習や生活面で不安な感じが強かったです。幸い、当時専攻の先生をはじめ、大教大の先生たちはとても優しくしてくださいました。研究上まだ無知だった私は、常に先生たちの熱心な研究態度に敬服いたしておりました。私にとって大教大で長い6年間は、学問の探求、人生観の形成及び困難に向き合う勇気の獲得という貴重な過程にもなります。

そして卒業後、中国の上海で言語に関する仕事をしております。まだ2年も経っていないですが、私が指導した多くの学生は日本へ留学し、楽しい大学時代を開始しました。今でもよく大教大での日々を思い出して、優しい先生たちの教訓を忘れません。皆さんもぜひ大教大での学習生活を楽しんで、かけがえのない時間を大切にしてください。



グローバルセンターニュース&More!

EAIE報告

高度教職開発系 高度教職開発部門
特任准教授 王 林鋒(ワン リンフォン) グローバルセンター 国際教育部門・連携開発部門

2022年9月13日～16日にスペイン・バルセロナで開催されたEAIE (European Association for International Education) 年次大会にグローバルセンター長 箱崎雄子教授、副センター長 中山あおい教授と行って来ました。EAIE大会※は、欧州最大の国際交流コンベンションであり、今年は対面開催が復活しました。世界89か国からの出展があり、日本からもJASSO、JAFSA等の教育機関も含め23大学・機関、世界各国より約6,000人が参加しました。会期中は、既に本学と提携している大学と交流状況に関する情報交換を行ったり、これまでに交流のなかった多数の大学と面談を実施しました。教育大学の強みを発信しつつ、語学研修以外を目的とする交換留学や短期研修の可能性を探ってきました。特に各教科教育の学生が海外の現地校で教育実習やインターンシップをする短期プログラムを重点的に

に開発することが期待できます。今回の交流をもとに、本学はさらなるネットワークの拡大と国際化を充実していきます。



※EAIE…本学は国際教育交流団体に加盟し、国内外の大学・教育機関等との交流促進に努めています。EAIEは、地域別に海外で開催される大きな国際教育交流フェアの一つで、世界各地の国際教育関係者が集い、高等教育関連機関の協力、提携の促進、担当者の研修・育成、ネットワーキング強化等を目的としています。

外国語学習支援ルーム(GLC)の活動報告

GLCサポーター活動を通じて得たもの

外国語学習支援ルーム(GLC)では国際室職員の他に、GLCサポーターと呼ばれる学生スタッフが交替で勤務し、国際交流に関する様々なサポートを学生目線で行っています。今回は今年卒業する3人に活動を振り返ってもらいました。

■金田 和也(カナタ カズヤ)

教職大学院高度教職開発専攻教育実践力コース2回生

サポーターになったのは、フィンランドへの交換留学の経験を活かしたいと思ったのがきっかけでした。GLCでは留学相談や英語学習相談を中心に活動をしてきました。留学を志す学生さんの相談に乗る中で、それぞれの夢や目標について聞かせてもらい、私自身もとても刺激を貰いました。活動を通じて得られた多くの人との繋がりは今後にも活きる貴重なものです。

■徳留 福音(トクトメ フクネ)

教育協働学科グローバル教育専攻英語コミュニケーションコース4回生

サポーターになった当初は慣れない仕事に戸惑いました。時間が経つにつれ、どのようにすればみんなが楽しめるチャットができるかなどを、サポーター同士で考えながら仕事させていただき、いろんなことを考えながら行動できるように最後は成長できたと思います。多くの人と関わって考え方の違いも体感でき、良い経験になりました。

■武平 裕介(タケヒラ ユウスケ)

教育協働学科グローバル教育専攻英語コミュニケーションコース4回生

留学を考えていた矢先にコロナ禍に遭い、日本にいても異文化に触れる機会を自ら創らなければと焦っていました。英会話サークルや地域の日本語教室など試行錯誤しましたが、以前にランチタイムチャットに参加した事を思い出し、サポーターに応募しました。私は広報係としてインスタグラムを開設し、様々な情報発信をしてきました。GLCで得た「世界から見た日本」「他人の靴をはいてみる」という知見を活かしていきたいです。



前列左から徳留さん、武平さん、後列左、金田さん

留学生支援のお願い

留学生後援会では修学支援奨学金の給付による留学生支援を行っております。ご賛同くださる皆さまは、下記によりご支援下さい。留学生支援のためのご寄附についても、税法上の優遇措置の適用を受けることができたこととなりましたので、この機会にぜひご検討下さい。

学内教職員

- 一口500円/月、給与から天引き

学外支援者

- 振込…任意の金額を下記宛てにお振込下さい

三菱UFJ銀行 藤井寺支店

普通預金 口座番号: 5210211

名義: 大阪教育大学留学生後援会(オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ)

- 現金納入

寄附・納入
方法